

平成 27 年度第 1 回 豊田市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会
議事録

日時：平成 27 年 7 月 29 日（木）13：30～

場所：豊田市福祉センター41 会議室（4 階）

出席者：

分科会委員（敬称略） 安藤惣吾、上野谷加代子（分科会長）、梅田幸重、柿島喜重、加賀澤泰明、
加藤章、加藤雪子、神谷誠司、須賀進、瀧澤徹、西村文江

：事務局 今井市民福祉部長、伴市民福祉部副部長、兵藤市民福祉部福祉担当
副参事、梅田地域福祉課長、花木地域福祉課副課長
（事務局）新實、江崎、濱谷
（社会福祉協議会）小澤常務理事、川合事務局次長、中田地域福祉課長、
栗本地域福祉課係長、水野主査
：市関係課 地域支援課 前田副課長、生活福祉課 中野担当長

欠席者：坂野貢、杉本吉行

傍聴者：2 名（地域福祉活動推進委員会会長、副会長）

○次第

- 1 豊田市役所市民福祉部長あいさつ
- 2 分科会長あいさつ
- 3 新任委員あいさつ
- 4 議事録署名者の指定
- 5 審議事項
議題 1 副分科会長の選出
議題 2 平成 27 年度の各重点取組の進め方について

開会

- 1 豊田市役所市民福祉部長あいさつ

【事務局】

上野谷地域福祉専門分科会長及び地域福祉活動計画策定委員会委員長からあいさつをお願いします。

- 2 分科会長あいさつ

【上野谷分科会長】

分科会長を務めさせていただいております上野谷です。平成 27 年 3 月に策定した豊田市地域

福祉計画と社会福祉協議会が策定した活動計画は一体に作った特徴ある計画です。区長のみなさまには住民懇談会で大変お世話になりました。計画は、生活圏域で捉えないといけませんので、地域住民を巻き込んで、絵に描いた餅とならないよう進めなければなりません。また、専門職や様々な団体が力をつけて、共働していく必要があります。この計画がどのように進んでいくのかを見守りつつ、新しい委員もいますので、色々な意見を交換していきたいと思います。

国においても、矢継ぎ早に様々な物事が変わっており、それについていくのが大変ではありますが、この豊田市域において、住民の生活をゆたかにするということには大きく変わりはありませんので、豊田市らしいものを作っていくという意識でよろしいと思っています。私からも国の動向をお伝えしつつ、市長の言われるミライに向けてみなさまのお力をお借りして会を進めていきますので、よろしくお願いします。

【梅田地域福祉課長】

ありがとうございました。

3 新任委員あいさつ

【柿島委員】

今年から計画スタートの年として、社会福祉協議会としましても、頑張っって参りたいと思いますので、よろしくお願いします。

【神谷委員】

この4月から、老人クラブという名称を高齢者クラブに変更しました。豊田市において老人クラブが発足してちょうど50年を迎えました。節目を迎えるにあたり、色々変えていこうという意思表示として、まず名称を変更しました。現在の65歳の方々は自分自身を老人とは思っていません。また、同じタイミングで策定されたこの計画にも主体的に協力していきたいと思っています。

【須賀委員】

現在300人近い区長がいますが、区長の業務は本当に大変であります。地域福祉という視点は今後非常に重要な視点となってくることでしょう。それらを地域で見えていくということで、増々区長のやることは増えていきますが、関係機関並びに民生委員の方々と連携して住民のために努めて参りたいと思いますので、よろしくお願いします。

【西村委員】

分からないことが多いと思いますが、よろしくお願いします。

4 議事録署名者の指定

【上野谷分科会長兼策定委員長】

それでは議長を務めさせていただきます。まず、はじめに豊田市社会福祉審議会・地域福祉専門分科会の定足数の確認です。事務局より定足数のご報告をお願いします。

【事務局】

本日、社会福祉審議会・地域福祉専門分科会に委員12名のうち10名のご出席をいただいております。欠席は坂野委員と杉本委員の2名です。豊田市社会福祉審議会運営規定第4条第5項の

規定により過半数の定足数を満たし、有効に成立していることをご報告いたします。以上です。

【上野谷分科会長】

ありがとうございます。続きまして、豊田市社会福祉審議会運営規定第12条第2項に基づき、地域福祉専門分科会の議事録署名者を2名指名します。柿島喜重委員と加藤雪子委員、よろしくお願ひいたします。前回の議事録は事前に送付していますが、その議事録署名に指定していた宇井委員が交代されましたので、加藤章委員にお願ひしたいと思ひます。

5 審議事項

議題1 副分科会長の選出について

【上野谷分科会長】

分科会規程第5条に会長が指名するとありますので、私が指名いたします。社会福祉協議会代表の柿島委員にお願ひします。よろしいでしょうか。それでは柿島委員からあいさつをお願ひします。

【柿島委員】

ありがとうございます。社会福祉協議会としましても、活動計画を所管しており、7月3日に活動計画推進委員会を実施しましたが、非常に活発な取組姿勢が示されました。私は地域福祉計画と活動計画を兼ねるような身となりますが、しっかり取り組んでいきますので、よろしくお願ひします。

議題2 平成27年度の各重点取組の進め方について

《事務局より説明》（資料1参照）

【上野谷分科会長】

取組内容について、今年度第1回目の分科会であり、新しい委員もいますので、事務局には復習を含めて丁寧の説明してもらいました。また、活動計画の推進委員会での資料もいただいておりますので、そちらも踏まえて質問や意見を出していただきたいと思ひます。

いきなり全範囲では大変ですので、まずは重点取組①～③についていかがでしょうか。

【加藤章委員】

まずは住民懇談会について、幅広い参加が必要だと思ひます。区長や地域会議委員の参加は重要ですが、住民の直接の声が大切です。

次に多世代交流について、ふれあいサロンを社会福祉協議会にて実施しているかと思ひます。どちらかというが高齢者中心で実施かと思ひますので、そこに多世代交流の視点を入れてみてはどうかと思ひます。多世代が来れる曜日の設定であったりできるかと。

もうひとつは、夏休み期間におけるボランティア体験機会の設営とあります。現在もやっているかと思ひますが、更にグレードアップすることなのでしょうか。ご意見いただきたい。

最後にもうひとつ、企業退職者の地域活動への参加促進について、現役の人にも参加してもら

えれば理想的なのですが、なかなか時間がないという状況です。なので、退職者に向けて動くのはよいと思います。企業にも理解をもらいながら働きかけを進めてほしいところです。老々介護が増えている中で、私としては60歳～65歳はまだ若いと思っています。そういった方々を担い手にできればいいですね。

【上野谷分科会長】

夏休み期間のボランティア体験機会の設営について、社会福祉協議会から回答できますか。

【社会福祉協議会 中田課長】

今年度は、市内福祉施設やこども園等から164ものメニューをいただきました。子どもから社会人まで幅広く参加があり、800名余という昨年度の2倍の参加者がありました。市内の機運の高まりを感じております。また、これからも多くの声をいただいて実施していく予定です。

【加藤章委員】

夏休みという時期のため、学生未満の方が多く参加している状況かなと思いますので、企業退職者も多く参加してもらえる仕組みを期待します。

【上野谷分科会長】

昨年度の2倍になったという点は非常に評価できる点だと思います。他市は減っている状況です。企業退職者という大人の参加についてはどうでしょうか。退職3年前くらいを対象としたプログラムを10年前から全社協がモデル事業として山口県や岩手県で実施しており、「夫婦プログラム」や料亭とタイアップして料理教室を実施したりボランティア活動に組み込んだりしています。経済動向との絡みもあってうまくいきませんでした。是非、豊田市でいい取組ができるよう市と社会福祉協議会には頑張ってもらいたいと思います。

【須賀委員】

地域には、何かをやりたいけど何をやればいいのか分からないという人がいっぱいいます。そこを取り込むことができれば担い手は増えると思います。

【神谷委員】

今は、団塊の世代の方々が退職されて地域に戻ってこられる時期です。半分以上の方は、自分は老人ではないと思っており、自分の趣味などに没頭されます。そのため、なかなか地域に目を向けてもらえないのが現状ですので、社会貢献の意識と地域へ目を向けてもらうことが必要です。

また、市民福祉大学の開講により住民福祉教育を図るとのことですが、高年大学もそうですが、全市的に実施されており、そこまで足を運ぶことに難を示されることもあると思います。なので、交流館での開講など地域単位での実践も必要だと考えます。トヨタからミライという燃料電池自動車が販売されましたが、そういうちょっと内容は直接的ではないけれど、人が集まる講座を設けて地域で集まる仕組みを作るなどいいかと思います。

【上野谷分科会長】

市民福祉大学という話が出ましたが、事務局としてどう捉えていますか。

【活動計画推進委員会 山村副会長】

これまでの住民懇談会において、担い手不足というのが全市的に一番の課題として挙がりました。各地域において、役員を交代するにも引き継ぐ人がいないしやってくれないとのことでした。そのため、市民福祉大学を開講し、担い手を育成するために知識や行動力を付けてもらおうということですが、稲武地区や上郷地区などから参加いただくと、会場まで車で1時間近くかかると

いう点が最大の課題となっています。ただし、今は開始の時期であるため、これからを考えると大学を卒業していただいた方の何人かに地域にて実践していただき、それぞれの地域に合わせて地域で展開してもらえようと考えています。よって、今回の第1回については、大学と銘打って集約型で実践ということとなります。もちろん27地区から最低1人は受講いただいて、将来的にそこから地域展開させられるよう各地区をお願いをしていく予定です。

【上野谷分科会長】

今季10月に開講し、地域で展開していただける人材を養成する予定だが、まず第1期目なので、中央に集まってもらうということですね。移動大学のような年2～3回は別の地域でやりますという手法もいいかもしれませんね。また大学ではサテライトという考え方もありますので、交流館をサテライトとして、手上げになるかもしれませんが、誘致するのもアイデアとしてあるかと思います。育てていく市民福祉大学という考え方でいいかもしれません。

【滝澤委員】

実は私のところに、民生委員をやっているから色々知っているだろうということで、某企業退職者が訪ねてきて地域や退職者の人に向けて健康づくりをやりたいと相談がありました。市民福祉大学が新たに開講するのでどうだと教えてあげて喜んで帰っていきました。第二の人生を前に、退職者は人生設計ができていて方とまだ決まってない方の二種類に分かれます。特に決まっていない方には周知してあげると本人たちのその後の参考になるかと思います。

【上野谷分科会長】

豊田市ですと、そういったことを考えはじめるのは何歳くらいからでしょうか。

【滝澤委員】

自動車系に勤める方は65歳まで再雇用することが多いので、65歳～75歳くらいが多いと思います。

【上野谷分科会長】

それくらいの年齢の方には趣味に没頭するだけではなく、福祉活動もしていただけるよう混合の生活スタイルを目指していく必要がありますね。5人くらい人が集まれば物事は始められますので、事務局には柔軟な運営が求められます。

【滝澤委員】

どれだけいい事業を起こしても知らしてもらえなければ意味がないため、こういう何か始めたいという人に知らしてもらうことがまず必要だと感じます。焦らずに地域と意見を合わせて進めていくのがいいでしょう。

【社会福祉協議会 中田課長】

滝澤委員のおっしゃるとおりこれから2年間で種まきをしっかりやっていこうと思っています。計画の概要版も多数印刷をしましたが、ただ渡すだけでなく、会話をしながら提供していくといった形で周知を図っていきます。

また、企業退職者については、退職される前からスタートしなくてはいけないと思っているため、「社会人のための地域参加促進セミナー」を実施しています。トヨタ自動車労働組合やとよた市民活動センターと連携して、会社勤めの頃から参加いただき、その後地域の担い手として活躍いただけるよう進めています。

また、住民懇談会について、ひとつの大きな目的ではありますが、ツールの1つであると思

っています。地域のみなさんに集まってもらい情報交換し、機運を高める手段ということですが、中学校区単位でやっていこうという話をしましたが、藤岡地区は、これから小学校単位でやっていこうという動きがあります。しかもコミュニティ会議という地域が主体となってやっていこうと言ってくれています。藤岡地区には企業もありますので、その退職前後の方が、自分たちに何ができるのかと談義していただければいいと思います。これまでの住民懇談会は、地域の核となる方々に声をかけて実施してきましたが、今回は回覧版にて全戸確認いただくといった形ですので、よろしくお願いします。

【事務局】

さきほどの周知の話ですが、地域で今話題となるのが、避難行動要支援者の話です。地域の方々には、地域福祉計画に位置付けられたものと話をすることがあります。また、この会議後にもありますが、ブロック地域ケア会議というものがあり、地域の専門職の方や住民に参加いただいております。地域の福祉課題について検討するのですが、そういった場でも地域福祉の考え方の再確認や行動につなげてもらうよう周知を図っております。

また、担い手について、企業退職者が大きなターゲットであります。大企業、中小企業と幅広く模索していこうと考えております。

【滝澤委員】

避難行動要支援者の話が出ましたが、そのなかで個別支援台帳というものがあります。先日区長からそれはなんだという質問がありました。区長会と行政の連携が取れていないと感じています。いかに区長会に情報を提示し、展開していくかは非常に重要なことです。

【事務局】

なかなか難しい点として、区長の任期が短いため、引継ぎという点でうまく情報が共有されていないことが考えられます。課題として認識しています。

【上野谷分科会長】

市民というより国民と言ったほうがいいかもしれませんが、例えば災害救助法が改正されたとして、それをどれくらいの国民が知っているか。市長責任が問われる時代ですので、手上げ方式でなく半ば強制的にでもやらなくてはならないのです。東日本大震災を経験し、住民も自ら知っていないといけないと思います。制度が変わりましたというのを全面に出す必要がありますし、まず自分の命は自分で守るんですよというのを理解してもらうことが必要です。

ワーキンググループと記載されているものの意味はなんでしょうか。

【事務局】

(4)、(5)、(6)について、ワーキンググループと記載させていただいていますが、これらはもっと制度設計が密に必要だと思っている項目です。社会福祉協議会含めて関係部署ともっと検討をしていく予定のため、特に注釈を付けています。

【上野谷分科会長】

それでは続いて基本目標3、4について進めます。ご意見いかがでしょうか。

【須賀委員】

(9)の生活困窮者自立支援方策について、事務局にお聞きします。実績が記載されていますが、これら相談はどのような支援や関係機関へつなげたのでしょうか。

【事務局】

担当課から聞いている範囲になりますが、相談としては、お金に困っているというのが大半です。ただし、この支援がお金を貸してくれるといった風に考えて相談に来られる方が多く、そうではないため、他制度へのつなぎとして社会福祉協議会の貸付制度を紹介したりしました。

【須賀委員】

実施している内容は目新しいものではないと思いますので、どういう内容をやっているのかというのを市民目線で伝えることが必要かと思います。

【梅田委員】

私のところに、お金に困っている方が見えただけ、社会福祉協議会に連れて行きました。貸付などでお金は借りられましたが、ではその後どうやって返済していくのかという問題が挙がってきます。市の生活福祉課に結局行くことになりませんが、解決するために別の課にお世話にならないといけません。そういう方が数多くいるという危機感を持つ必要があります。

【上野谷分科会長】

自立を支援するという方策がこの4月から全市町村で施行されています。どの自治体も頭を悩ませていますが、豊田市のやり方は何か特徴はありますか。

【生活福祉課 中野担当長】

相談事業については、市と社会福祉協議会の双方、住宅確保給付金については市で実施しています。就労準備や家計相談事業については、社会福祉協議会に委託しております。ただし、市民がどちらかの窓口に来られた際は、市と社会福祉協議会で情報共有して対応できるようにしています。

【事務局】

豊田市においては、平成24年ごろからライフラン事業者、区長、民生委員などから生活困窮者の情報を提供いただき支援につなげるなど現在の自立支援方策に似た支援をやってきました。また、学校の先生方からも子どもが家庭の問題を抱えているような素ぶりがあれば情報をいただくといった形で多方面から情報収集し、支援につなげるということをしており、今回の制度にこれまでの取組を合わせて実施しております。

【上野谷分科会長】

これまでの取組を活かすために、今回の制度を策定したというのが厚労省の言っているところであり、目玉としています。目玉と言っている割に予算が付かなかったために各自治体は困っている状況です。しかし、制度としてやる以上は、ビフォーアフターをはっきりめりはり付けて実施する必要があります。制度ができてどう変わったかが求められますので、そこを意識してください。オール福祉で取り組まないと残念な結果となってしまいます。

【滝澤委員】

生活困窮者の話がでましたが、私の地区でも2件ほど相談がありました。私としては、こういう制度があるから社会福祉協議会と市の生活福祉課に相談に行くよう伝えました。こういう制度があること、できたことを知らない人は多いです。

【上野谷分科会長】

市民代表として加藤雪子委員はいかがでしょう。

【加藤雪子委員】

昔は、自分の住む地域のことはある程度分かるのが普通でした。どういう家庭なのか、家族構成なのか。しかし現在は同じ組の人間でも気づいたらお爺さんお婆さんだけになっている家庭、孫がいる家庭など情報が分かりません。定期的に顔を合わせることもなくなり、そういった状況になっているのだと思います。色々な情報が入ってくる世の中ですが、近くの情報は入ってこない世の中になっています。身近な人が支え合って地域を作れば理想ですが、なかなか難しい。私もジレンマとして感じています。こんなに素晴らしい計画を立てたけれど、必要としている人に知られないのはもったいないと思います。

【上野谷分科会長】

身近な人で支え合うというのは一番基本的なことですね。

安藤委員いかがでしょうか。

【安藤委員】

今までの介護事業において、「やってくれてありがとう」ということから、「自分はまだそんな歳ではない。」といった時代の変化を感じます。仕事で利用者のプランを立てますが、その人の意欲を出させるようにしないとプランが立ちません。地域ケア会議などで地域の銀行や商店が地域のためにと色々苦勞して協力してくださっているが、本人たちが自分の将来を見据えてくれないと意味がない。やってもらうだけの介護ではダメなんです。そういう点についても、しっかり理解をしてもらえよう働きかけることが必要です。

さきほどの生活困窮でも、家があるなら家売って生活ができるか考えたり、自分で自分のことを考えることが優先です。

【上野谷分科会長】

そのとおりだと思います。自立支援ですので、本人の考え方、行動の仕方が重要です。自立というのは6つありまして、①経済的自立、②健康的自立、③精神的自立、④文化的自立⑤娯乐的自立、⑥生活技術的自立です。こられを意識して自立支援を実施することと、市だけではやりきれない部分は関係機関に協力を求めるという取り組み方でいいと思います。

子どもがいる家庭として、西村委員いかがでしょうか。

【西村委員】

私は夫の両親と2世帯で暮らしていますが、75歳になる義理の母は自分で「私は昔人間だから」と言われます。気持ちは分からなくないですが、そういう人を説得するのはなかなか難しいです。

【上野谷分科会長】

豊田市長の気持ちとしては、3世代同居（近居）が理想で、そのための家族支援ができればとおっしゃっておいりました。なかなか住宅状況上難しいところもありますが、進めていくのでしょね。

柿島副会長はいかがお考えでしょうか。

【柿島委員】

困っているけど表に出て来れない人をどのように出て来るようにするか、情報が伝わりにくい人にどのように情報を伝えるか、昔から行政として課題となっています。チラシを配りました、ホームページに載せました、と言っても本当に必要な人に見てもらえない。細やかに丁寧にやっ

ていくことが必要かと思えます。今回計画を立てた市と社会福祉協議会は協力してこれらを解決しながら進めていきますので、よろしくお願ひします。

【上野谷分科会長】

どこまでやらなければいけないか不明確な中でやるわけですから。地域福祉とはそういうものだろうと思っています。

本日は推進委員会の会長も傍聴でお越しなので、ご意見いただきましょうか。

【活動計画推進委員会 古川会長】

市の計画と社会福祉協議会の活動計画がいよいよ冊子となって展開していく時期となりました。推進委員会は3年の任期ですが、やらなければいけないことが山ほどあると認識しています。しかし、まずは確実に一步一步やっていくことが大事だと思っています。その上で、行動を起こしていくことが、役目だと思っています。福祉というのは、絵に描いた餅となつては絶対にダメです。推進委員会はみなさんや社会福祉協議会と一体になつて進めていきますので、今後ともよろしくお願ひします。

【上野谷分科会長】

ありがとうございました。地域福祉計画のための当分科会と地域福祉活動計画のための推進委員会は車の両輪です。そういう位置付けであることをみなさん承知しててください。

行政の立場として、今井部長いかがですか。

【今井部長】

皆さまのご協力により策定した計画も、市民に知られていない計画となつては元も子もありません。行政のあらゆる部門で市民に知ってもらおうというのはどこも同じで、それゆえに現実的には難しい点も出てきますが、それでも時間をかけてもいいので知ってもらおうことが始めの一步です。努力していく所存です。

【上野谷分科会長】

私からしますと、本当に豊田市の委員は熱心でよく気がつく方が多いです。というのも、今回この計画は第1期目なのです。他の自治体では第3期に突入していたりします。委員も交代されて重層的になってきてようやく知られ始めますが、それでも認知度は3分の1程度ですね。委員のみなさんの勢いがあれば、豊田市はかなり頑張れると感じています。会長の立場として、豊田市は元気の出るまちだと評価します。これからもそれぞれの団体でも参加をいただきながら推進に努めていきたいと思ひます。

【事務局】

ありがとうございます。大変活発なご意見を賜りありがとうございました限られた時間でしたので、まだご意見のある方は、配布した意見書を期日までにご提出ください。今回は第1回ということでしたが、今年度はあと1回予定しております。第2回は年明けてから2月又は3月を予定しておりますので、よろしくお願ひします。

長い時間ありがとうございました。以上を持ちまして、平成27年度第1回豊田市社会福祉審議会地域福祉専門分科会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

以上